

立命館大学環太平洋文明研究センター第2回研究会

12月5日(木)18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館 2F 研究会室 2

縄文人のころは理解可能か

ー環状列石や土偶を統計解析とGISで読み解くー

中村大（セインズベリー日本藝術研究所共同研究員：考古学）

環状列石（ストーンサークル）や土偶は、縄文文化を特徴づける祭祀の施設・道具だが、具体的な意味が判然としない考古資料の代表でもある。どうすればそれらに込められた縄文人の意図を理解し、社会的役割についてより具体的に考察できるのか。有効な方法の一つは「比較」である。違う地域や時期の事例と比べることで対象の個性や普遍性がみえてくるからだ。統計解析やGISを活用した定量的分析を導入すれば、比較が容易になり解釈の根拠を明示できる。また、分析結果に現れた地域性は、縄文文化が“Jomon Cultures”というべき多様性を秘めていることを教えてくれる。

立命館大学環太平洋文明研究センターは今年4月に新設された新しい研究組織です。「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」のが目的です。人類学、環境考古学、地理学、考古学の研究者からなる研究組織です。

定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。



秋田県大湯環状列石

問い合わせ先：矢野健一（文学部：kyt21175@lt.ritsumeai.ac.jp）

立命館大学環太平洋研究センターHP：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rcppc/>